

## 有機フッ素化合物（PFAS）の流出防止対策、汚染実態調査を求める署名

綾部市長 山崎善也 様

あやべ<sup>ビーファス</sup>PFAS汚染から健康を守る会（準備会）

呼びかけ人 芦田 誠也

川島 信治

塩見 元

新田 敬治

昨年（2023年）、綾部市内の犀川・天野川および上流の産業廃棄物処分場（以下処分場）から暫定指針値（2020年に健康への知見に基づいて目標値として設定された値：50 ng/L）を超える有機フッ素化合物（PFAS）が検出されました。その後、毎回の市、府議会において質疑もされ、市内2団体による署名・要請もされましたが、改善に向けての実効的な措置はとられていません。

現時点でも、処分場からの流出は続いています。下流の汚染を防ぐために、まず処分場からの流出を止めることを優先して取り組むべきです。処分場からの流出は雨水の埋立て地内部への浸透と埋め立てる前に敷いた遮水シート等の損壊等（不健全性）による周辺地下水の侵入が考えられます。前者については、埋設地表面をシート等で覆うことで応急対応できます。不健全性は既設の観測井において、PFAS濃度を測定することによって暫定的に判断できます。もし不健全性が疑われたら、事業者を促して破損個所の特定、地下水の侵入防止措置を協力して行い、封じ込め措置を施すべきです。

### 【要請項目】

1. 処分場からPFASの流出を止めることを優先してください
2. 流出を止めるために、埋め立て地表面をシート等で覆うことと、処分場の健全性の調査をしてください
3. 処分場の周辺だけでなく、下流の犀川を用水とする農地を対象にした土壌検査をおこなひ、流域全体の汚染の実態を明らかにする取り組みをしてください

氏名	住所

（取り扱い団体

）